

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 小学校 第6学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・実験の技能・表現の	知識・理解	
A 生物とその環境	1	1(1)	1	吸う空気(まわりの空気)とはき出した空気について、それぞれ石灰水が白く濁るかどうかが分かっている。			○	92.9
		1(2)	2				○	93.5
		2	3	呼気の酸素や二酸化炭素の増減について、実験結果から読み取ることができる。		○		89.3
		3	4	鼻や口から入った空気がからだの肺に入ることを分かっている。			○	93.1
	2	1	5	人のからだででんぷんが消化されることを確かめる実験方法が身についている。		○		70.7
		2	6	でんぷんがあるかないかをヨウ素液で確かめるとどのような結果が得られるか分かっている。			○	57.8
		3	7	実験結果からだ液のはたらきについて考えることができる。	○			78.6
		4	8	食べ物が菌などで細かくされたり、だ液によって体に吸収されやすい養分に変えられることを消化ということが分かっている。			○	60.8
	3	1	9	植物が二酸化炭素を取り入れて酸素を出しているかどうかを確かめることが、どんな目的で行うのかを考えることができる。	○			91.0
		2	10	袋の中に数回息を吹き込むことによって、二酸化炭素を多くするという実験方法が身についている。		○		84.2
		3	11	気体検知管の正しい目盛りの読み方が身についている。		○		89.3
		4	12	実験結果から植物は晴れた日に酸素を出していることを説明することができる。	○			75.2
	4	1	13	光を当てた葉にでんぷんができていどうかを比較して確かめる実験方法が身についている。		○		68.5
		2(A)	14	でんぷんができていない葉をヨウ素液につけたときの結果が分かっている。			○	79.8
		2(B)	15				○	81.7
		3	16	葉に光を当てたときと当てなかったときの実験結果の違いについて考え、葉に光が当たるとでんぷんができることを説明することができる。	○			84.3
B 物質とエネルギー	5	1	17	条件を統一して実験を行うことが身についている。		○		29.6
		2	18	線こうのけむりの動きと空気の動きを結びつけて、線こうのけむりがどのように動くかが分かっている。			○	76.5
		3	19	線こうのけむりの動きと空気の動きを結びつけて、ろうそくの炎が燃え続けることを説明することができる。	○			80.1
		4	20	日常生活で見られる事象をものが燃える仕組みを使って説明することができる。	○			79.4
C 地球と宇宙	6	1	21	野外観察に出かける際の安全面についての留意点が身についている。		○		89.1
		2	22	切り通しの地層を比較して、地層の広がり方について考えることができる。	○			85.6
		3	23	土地のつくりや変化の規則性をもとに、地層の広がり方を説明することができる。	○			65.8
		4	24	火山灰の地層が、水のはたらき以外でできた地層であることが分かっている。			○	84.3
		5	25	地層の特徴から火山のはたらきでできた地層について考えることができる。	○			86.5